



ドングリの木ってどんな木？

雑木林を構成しているクヌギやコナラにはドングリが実ります。それらは、春や夏、秋や冬にはどのようなすがたをしているのでしょうか。また、ドングリの木にはクヌギやコナラの他にどのようなものがあるのでしょうか。

この活動のねらい

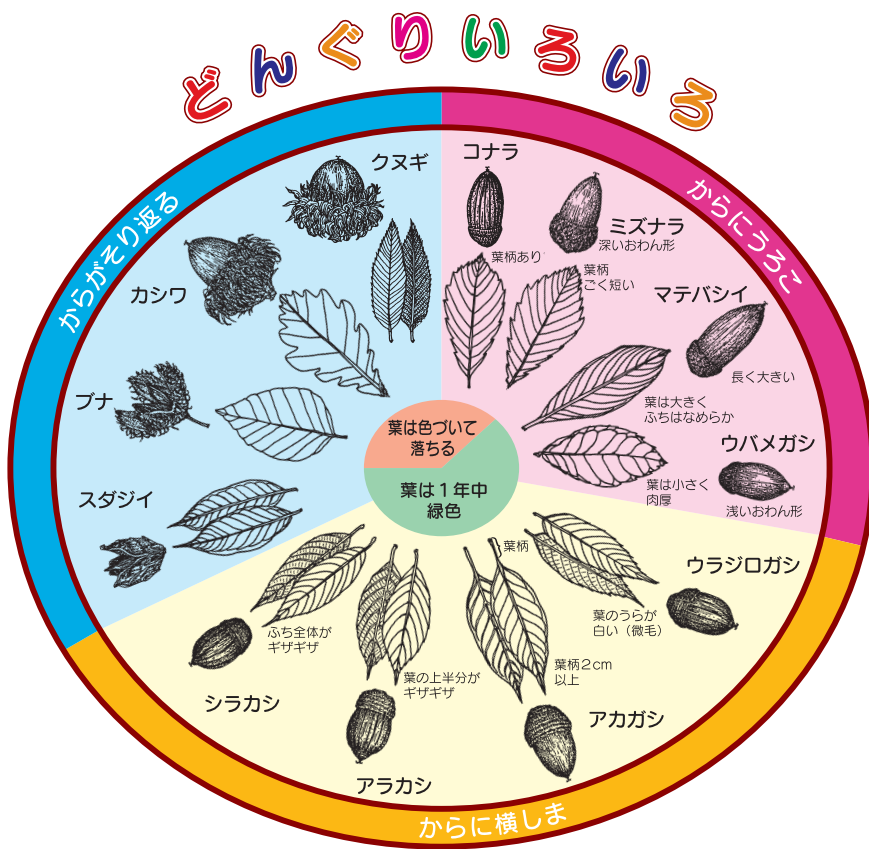
ドングリの木を季節を追って観察することを通して、四季折々の里山の自然を楽しみ、ドングリには様々な種類があることや、ドングリの木が身近にたくさんあることを知る。

「ドングリ」と「ドングリの木」

「ドングリ」とは、コナラ属・クリ属・マテバシイ属・シイ属・ブナ属などブナ科の樹木につく果実の総称である。果実は、果皮がかたく熟しても裂開しない堅果に含まれる。

また、ドングリの木は、常緑樹と落葉樹に分けられ、さらに、ドングリの殻のようすでもグループ分けをすることができる。

ドングリがついていない季節には、葉の形や樹皮のようす、冬芽のつきかたなどを観察して、木の種類を見分けることができる。



準備するもの

- ・ 樹木用の図鑑 ・ スケッチブック ・ カメラ ・ 筆記用具 ・ 小さめの袋 ・ 新聞紙
- ・ ラミネーター ・ ラミネートフィルム

事前準備

- ・ 樹木用の図鑑を使って、ドングリの木の名前や種類を調べておく。
- ・ 事前に下見を行い、安全に、ドングリの木を観察できるコースを選定する。

春や夏のドングリの木を観察しよう

- 1 雑木林を歩きながら、ドングリの木を見つけ、どのような場所に生えているか、他にどんな木が生えているかなどを観察する。
- 2 樹皮のようす、葉の形や色、樹高、雄花や雌花、若いドングリなどを観察し、スケッチや写真で記録する。

まとめ

- ・生えている場所、樹皮のようす、花のようす、葉の形や色などの観点で、ドングリの木の特徴を表にまとめましょう。
- ・ドングリのつく場所、ドングリの大きさや形など、成長のようすを記録しましょう。

秋や冬のドングリの木を観察しよう

- 1 紅葉や落葉のようすを観察する。また、葉を採取し、新聞紙などにはさんで乾燥させ、標本をつくる。
- 2 ドングリを集めて種類ごとに分ける。また、大きさや形、殻のようすなどを観察し、スケッチや写真で記録する。
- 3 冬芽のようすを観察し、スケッチや写真で記録する。
- 4 ドングリを使って遊ぶ。(ドングリごま、やじろべえ、炒って食べてみるなど)

※ドングリを食べる場合は、新しいものを利用し、利用するドングリの種類や量に配慮する。
(**参考** クリ、スタジイ、マテバシイ、イチイガシなどは古くから食用として利用されていた。)

まとめ

- ・葉の形、紅葉や落葉のようす、ドングリの形、殻のようす、冬芽のようすなどの観点で、ドングリの木について特徴を表にまとめ、なかま分けをしましょう。
- ・乾燥させた葉や観察して得た情報をラミネートし、木の葉標本図鑑をつくってみましょう。
- ・つくった木の葉標本図鑑を持って、身近な里山を歩き、ドングリの木を見分けましょう。

※標本のつくり方は、茨城県自然博物館のホームページで紹介しています。

ホームページアドレス <http://www.nat.pref.ibaraki.jp/>



木の葉標本図鑑の例

●日本でみられる主なドングリの木 20 種 (順不同)

コナラ	イチイガシ	クヌギ	ツクバネガシ
カシワ	ブナ	ウラジロガシ	スタジイ
ナラガシワ	クリ	アベマキ	アカガシ
ミズナラ	シラカシ	ツブラジイ	ウバメガシ
アラカシ	イヌブナ	マテバシイ	シリブカガシ

※上の表では、春に開花受粉してから1年でドングリをつけるものを1年成ドングリ、2年かけて次の年にドングリをつけるものを2年成ドングリとして表しています。

参考となる本

『山溪ハンディ図鑑樹に咲く花』(山と溪谷社)、『ドングリ図鑑』(トンボ出版)、『タネはふしぎだね!』(茨城県自然博物館)